

メッセージアウトライン ローマ15：7～13「望みの神」

[7]「こういうわけですから、キリストが神の栄光のために、私たちを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに受け入れなさい」

ローマの教会は様々な文化的背景を持った人が多くおり、いろいろな問題もあった。それゆえパウロは一人一人が互いに受け入れあい、一致するようにこのように命じる。

その根拠は「キリストが…私たちを受け入れてくださったように」である。出身地、ことば、文化、教養、習慣、貧富の差、それら一切関係なくキリストは私たちを受け入れてくださった。→マタイ11：28、ヨハネ1：12 キリストが受け入れてくださったのと同様に、クリスチャン一人一人は主にある兄弟姉妹として、互いに受け入れあい、真実の交わりを持ち、一致していくことが大切。

[8-9a]「私は言います。キリストは、神の真理を現すために、割礼のある者のしもべとなりました。それは父祖たちに与えられた約束を保証するためであり、また異邦人も、あわれみのゆえに、神をあがめるようになるためです」

キリストは最初、「割礼のある者」すなわちユダヤ民族に仕える者としてご自身を現された。→マタイ1：1-16、15：24、20：28

神はこのようにイスラエルの父祖たちに対する約束をキリストにおいて実行し、保証することにおいてご自身の真理、真実さを明らかにされた。「約束」とはイスラエル民族が神の民となるということ。→創世記12：1-3、17：1-14

しかし、そればかりではなく、神はあわれみによって異邦人も救い、神をあがめる者となるようにされた。弟子たちへの大宣教命令→マタイ28：19 ユダヤ人も異邦人も区別なく救われる。→ローマ10：12-13

[9b]ここは詩篇18：49からの引用。パウロはこの箇所を、キリストの福音が諸国民に伝えられ、神の名が諸国民の間でほめたたえられるようになるという意味で使っている

[10]ここは申命記32：43からの引用。諸国民が神の民とされ、ユダヤ人とともに神をほめたたえるようになることが示されている。

[11]ここは詩篇117：1からの引用。前節と同様、あらゆる国民が主なる神をほめたたえるようになることが示されている。

[12]ここはイザヤ書11：10からの引用。「エッサイ」はイスラエルの王ダビデの父。エッサイの子ダビデの家系から救い主が現れるという預言。しかもその救い主はイスラエル民族だけでなく、異邦人を治めるためにも来られたお方であった。確かに異邦人は(私たちも)このお方イエス・キリストに望みをかけている。このお方なくしては一切が空しい。

[13]ここはパウロの切なる願いであり、祈り。「望みの神」とは希望を与えてくださる神という意味。この神が与えてくださる二つの祝福。→①信仰によるすべての喜びと平和を持って満たしてくださる。②聖霊の力によって望みにあふれさせてくださる。

信仰と愛によって互いに受け入れあい、一致しているクリスチャンたちの交わりの中に、聖霊は豊かに働かれる。その時、私たちは希望にあふれた者となることができる。